

広
報

H A
葉 山
Y A M A

5 No.566
月号



今月の目次

地域で支え合うこと	… 2	教育委員会だより	… 14
はやまNEWS	… 6	ごあんない	… 16
子育てひろば	… 10	葉山いろいろ写真館	… 22
健康情報	… 12	町長コラム	… 23

地域で支え合うこと



◆把握・見守る・つなぐ

町民の皆さんが、住み慣れた町でいつまでも暮らすことができるよう、町や県などは、色々な支援を行っています。しかし、相談先がわかりづらいことや、手続きが複雑なことが原因で、支援を活用できずにいる人もいます。

そのような皆さんの声を「把握し」、地域を「見守り」、行政や専門機関と地域の人を「つなぐ」役割をしているのが、民生委員・児童委員です。

◆困ったら相談を！

暮らしの悩みはありませんか？ 家族や当事者で解決するのは良いことですが、抱え込むことで、状況が悪化する場合もあります。

そんなときは、ぜひお近くの民生委員・児童委員にご相談ください。葉山町には、52人（定数）の委員がいます。地域の委員を知りたい場合は、広報はやま1月号（町HPにも掲載）をご覧ください。また、福祉課（内線231）までお問い合わせください。

委員には守秘義務があり、皆さんの相談内容を他人に漏らすことはありません。

◆制度100周年

民生委員制度は、大正6（1917）年5月に岡山県で誕生した「済世顧問制度」を始まりとしています。

今月の特集では、100年という長い歴史の中で、いつの時代も大切にされている「地域で支え合うこと」について考えてみましょう。



▲ トントン工房の活動をお手伝い



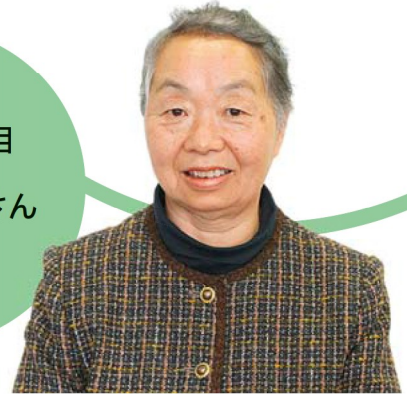
把握・見守る・つなぐために どんなことをしているの??

齋藤さん宅への訪問は、
いつも笑いが絶えません



相澤さんはとてもマメ！ 地域みんなの
家族のようで、なんでも相談できる存在です

委員 19年目
あいざわ たかこ
相澤 寶子さん
の場合



◆ 地域は大きな家族

人と話すことが好きで、電話よりも対面することを大切にしています。同じ言葉を交わすにも、表情を見た方が気持ちは伝わりやすからね。

委員としてではなく、地域という大きな家族の一員として気楽に話したいんです。家族を大切に思うのと同じように接すれば、状況を把握することだって難しくありません。

◆ 出合いが財産に

町内会長に委員を勧められ、「負担だったらやめよう」と気負わずに始めましたが、皆さんに支えられ、家族の協力もあり、あっという間に18年が経ちました。

葉山には習字や語学、手芸などの文化活動に秀でた方が多いですよ。委員になり、皆さんと深く話す機会が増え、色々な刺激をいただいています。委員活動で得たこの出会いは、かけがえのない財産です。



委員 7年目
えんどう かずえ
遠藤 和江さん
の場合



委員同士の情報交換も盛んです

◆ 仲間たちの支え

15年務めた前任者の後を継いだので、「経験も専門知識もないのに、私がやっていいのかな」と不安でした。しかし、先輩委員の「委員は、つかず・離れず・さりげなく」という言葉を聞いて、見守り活動にも前向きに取り組みることができました。

また、同じ地域の同期にも恵まれ、悩みを共有し、励ましあうことで続けてこられたのだと思います。

◆ 地域への恩返し

私は児童福祉部会で公園点検をし、危ない箇所などを町に報告して、対応してもらっています。委員を引き受けなければ、こうやって公園や子ども様子を細かく見ることもなかったです。

子どもたちがのびのびと遊んでいる姿を見ると、お世話になった地域に少しは恩返しできているかなと嬉しく思い、これからも頑張ろうと思えます。



委員 1 年目
みやざき すずむ
宮崎 進さん
の場合



施設の人たちとの会話も大切な時間

◆ 生まれ育った町で

生まれも育ちも葉山ですが、仕事の都合で30年ほど町を離れていました。そして葉山に戻ってきたところ、委員の仕事をしてみないかと声をかけられました。

ブランクがあることに不安はありましたが、地域を知るチャンスだと思い、挑戦することに！ 昔から知っている方には、未だに「進ちゃん」と呼ばれ、恥ずかしいですが嬉しくもあります。

◆ 委員の輪を広げたい

同じ時期に委員になった仲間の中には、小中高の同級生もいるんです。共通の悩みを持ち、相談しあえるのがすごく心強いです。また、広報1月号の民生委員・児童委員の記事を見た同級生から電話があり、約40年ぶりに話がありました。

同級生などのつながりから、地域の助け合いを呼びかけ、委員の輪を広げていけたらと思います。

■ 分野別の活動

民生委員・児童委員は、活動内容の質向上のため、約15名ずつの3部会と、3名からなる主任児童委員部会に分かれ、活動や研修を行っています。

1 高齢者福祉部会

主な活動は友愛訪問で、申請のあった寝たきりの高齢者へのタオル配布や介護施設の訪問、見学などを行っています。訪問は、お見舞いの意味はもちろん、介護の状況を把握すること、介護者の負担を確認することなども兼ねています。



2 児童福祉部会

子どもが過ごしやすい環境をつくることを目的に、学校訪問や公園点検を行います。部会のメンバーが全委員に声かけをして、地域の子どもの安全を守ります。訪問や点検で気になったことは、町や教育委員会、学校などに伝え、改善をお願いしています。



3 障がい福祉部会

障害者就労支援施設などでの活動のお手伝いや施設の見学、また、知的障害者を対象とした「夏の交流会」などを開催しています。さらに、近年増加傾向にある発達障害などを研修で学ぶことで、日頃から正しい知識と理解を持つよう心がけています。



4 主任児童委員

子どもは地域みんなで育てようという意識のもと、3人の主任児童委員を中心に、赤ちゃん訪問などを実施しています。育児に関する情報を提供したり、相談に応じたりするほか、子育て家庭と地域とのつながりをつくることを目的としています。



地域のつながりを助け 支え合う葉山を実現するために



民生委員児童委員協議会
副会長 小宮 和子さん



民生委員児童委員協議会
会長 荒井 武男さん



民生委員児童委員協議会
副会長 矢村 宗克さん



福祉課 板倉 裕介主査

板倉 皆さんが感じる地域の課題はなんでしょう？

荒井 少子高齢化や一人住まい高齢者の増加、ひきこもりなど多くあると思います。

小宮 最近は高齢者夫婦の問題も目立ちます。「二人とも健康だから大丈夫」と思っていたところ、どちらかに何かあった場合、頼る人がいないとか。家族で解決しなきゃいけないと頑張ってしまうんですね。

板倉 地域との関わりで大切にされていることは？

小宮 とにかく耳を傾けること。ただ話を聞いてほしいという人もいます。はけ口のない人が、遠慮なく話せる存在になりたいです。

板倉 委員ではない地域の人ができることは？

矢村 近所の人からの情報提供は非常に大切です。お互い支え合う気持ちで、周りの方に気を配り、気になったことがあれば委員までお知らせください。委員には守秘義務があるので、安

心して相談していただきたいですね。

荒井 私たちは福祉のプロではなく、「近所づきあいの達人」でありたい。民生委員が課題を解決するのはなく、解決のために相談先へとつながります。

板倉 新任の方も、重荷に思わないでほしいですね。

小宮 地域の人と接することや老人ホーム訪問で、元気な皆さんにこちらが励まされることもありますよ。

矢村 委員も地域の一員です。支援してあげるといって気持ちではなく、「寄り添う気持ち」を大切に、地域の皆さんと一緒に「助け合うまちづくり」ができたらと思います。

荒井 暮らしやすい葉山の実現には、それぞれが問題を一人で抱え込むことなく、地域がつながることが重要だと思っています。これからは委員は地域のつながりや助け合いの活動をしていきますので、皆さんもご協力をお願いします。